

10月8日（火） 命の授業

5・6年生が「命の授業」のお話を聴きました。講師の方は、小学校1年生だったお子さんを自宅近くの交差点において、交通事故で亡くされました。この度の講演にご両親が来てくださり、「当たり前の日々は奇跡の連続」という演題でお話をされました。亡くなったお子さんは、周りの人を喜ばせること、周りの人を笑顔にすることが好きで、作文に「みんなのえがおがみられるから、ゆうえんちにいきたい。」と書いていたそうです。

人が喜びそうなことをやっていく、友達の気持ちを聴く、困っている人に声をかけるなど、限りある時間の中でどうしたら周りの人が笑顔に、そして幸せになるのか考え行動すること。みんなが過ごす普段の日こそ幸せであり、奇跡であること。心の底から毎日を大切に過ごしたいと思いました。

